

砂川闘争七一周年記念集会

砂川の大地から、とどけ平和の声

土が語る記憶

— 沖縄と砂川平和の声を未来に —

【講演 ガマフヤー（沖縄戦遺骨収集ボランティア） 具志堅隆松氏】



2026年10月25日(日)

12:30受付開始 / 15:30閉会

立川市女性総合センターアイム
第3学習室（立川駅北口徒歩5分）
資料代500円、事前申込み不要



主催 砂川平和ひろば

後援 成城大学研究機構グローバル研究センター
平和社会学研究会



砂川闘争71周年記念集会

土が語る記憶

——沖縄と砂川 平和の声を未来に

集会プログラム

12:30 受付開始

13:00 開会挨拶

13:05-14:05 第1部 講演会
「ガマフヤー」具志堅隆松氏
「土が語る戦争の痕跡——遺骨収集活動からの学びと反戦平和運動の現在」

14:05-14:30 第2部 トーク
福島京子（砂川平和ひろば代表）
「砂川の大地が語りかけていること
——土から学ぶ平和活動」
聞き手：高原太一
（『砂川闘争とは何か』著者）

14:30-14:40 休憩

14:40-14:55
第3部 音楽とトーク
中村里美・伊藤茂利
「いのちの音色」ライブ



14:55-15:25 質疑応答

15:25-15:30 閉会挨拶

「いのちの音色」ライブ

歌と語りでヒロシマ・ナガサキを伝えるシンガーソングライター中村里美とギタリスト伊藤茂利によるライブです。被爆者の方々のメッセージを世界の人々に伝える活動の中から生まれた歌やトーク・朗読で「いのちの尊さ」「平和を愛する心」を伝えています。初プロデュース映画『アオギリにたくして』（企画・製作・プロデュース・音楽）にて 第一回 JASRAC音楽文化賞受賞

土の声を聴きつつ、土地の記憶を、未来の世代にどのように受け渡していけるのでしょうか。

沖縄では戦没者の尊厳を守るために遺骨収集を続けてきた具志堅隆松さんが、土地に宿る記憶と向き合いながら歩んできました。その歩みは、大地に宿る記憶に耳を澄まし、土の声を聞きながら進む道でもあります。砂川の地にもまた、平和な土地を守ろうとした人々の思いが静かに息づき、今も私たちに語りかけています。

今回の講演会では、具志堅さんが沖縄の大地から掘り起こしてきた「記憶」と、砂川の歴史が響き合うところを手がかりに、私たちは未来へ何を受け渡していけるのか、特に平和の継承に関して、ともに考える時間を共有したいと思います。

具志堅隆松氏は1954年那覇生まれで、ガマフヤーとして、28歳の時から沖縄戦遺骨収集を始めて40年以上になります。そうした活動の中から、具志堅氏は「大事な3つのこと」として、「①人を殺してはいけない。②殺されることを認めてはいけない。③自分を殺してはいけない。」と述べています（下記の著書を参照）。

現在は、「沖縄を再び戦場にさせない県民の会」や「戦争止めよう！沖縄・西日本ネット」で活躍し、さらに東京大空襲を含む日本の空襲を指揮した米軍のカーチス・ルメイ将軍に対して日本政府が1964年に勲一等旭日大綬章を授与したことに對して「叙勲取り消し」を求める運動を起こし、また東アジアからの平和構築に向けて中国での講演を含めて積極的に東アジアの人々との連携も深めています。そうして最近では、「沖縄県非軍事化及び地域外交推進条例の制定を求める請願」を沖縄県に提出し、具体的に反戦平和活動を着々と展開しておられます。

このような具志堅隆松氏の活動から、平和の実現のために、私たちが学べることは非常に多いと思われます。ぜひ、この機会に、砂川の経験も踏まえて、平和のために私たちに何ができるかを考えてみたいと思います。

- ・著書『ぼくが遺骨を掘る人「ガマフヤー」になったわけ。—サトウキビの島は戦場だった』合同出版(2012年)
- ・最新インタビュー記録「『新しい戦前』に抗するために——沖縄戦遺骨収集の具志堅隆松さんの活動」『平和社会学研究』第4号、東信堂（2026年）所収。

【関連イベント】前日10月24日（土）15:00～17:30

成城大学3号館3階大会議室にて、具志堅氏をお招きして会合をもちます。参加無料で、どなたでも参加できます。

「反戦平和の過去・現在・未来——沖縄と砂川からグローバルに問う」（主催：成城大学研究機構グローバル研究センター、共催：平和社会学研究会、後援：戦争をさせない社会研究会）